

インターネット配信による渡日前日本語事前学習支援体制の構築

赤木 弥生

要旨

日本語の学習がいつでもどこでも可能となる、J-Support 日本語学習支援サイト（試作版）<http://j-support.isc.yamaguchi-u.ac.jp> を構築し、2011 年から渡日前日本語事前学習プログラムを山口大学へ留学予定の学生を対象にインターネットで試行的に配信している。渡日前日本語を学び、渡日後の日本語学習に繋げていく、渡日前・後の一貫した日本語教育支援を目指している。本稿では、日本語・英語・中国語 3ヶ国語対応の J-Support 日本語学習支援サイトのマルチメディア日本語学習プログラムを用いた日本語学習支援体制について報告する。

キーワード

日本語事前学習, 渡日前・後一貫日本語学習支援, インターネット配信

1 はじめに

留学生 30 万人計画が発信されて以来、留学生交流事業が拡大しつつあり、留学生の受け入れも拡大してきた。山口大学工学部でも、マレーシアからの学部生の編入生、インドネシア、ベトナム、タイからの大学院生の増加に伴い、非漢字圏からの留学生が中国人留学生数を上回ってくるなど留学生受け入れの実態も変貌しつつある。

山口大学をはじめ国立大学では、理工系大学院生の受け入れが多いが、大学院生は、母国で日本語を学ぶ機会がなく、日本語ができないまま来日するケースがほとんどである。来日後は、日本語の学習時間も少ないため、日本語ができず、日本での生活や学業に苦勞する留学生が多いのが現状である。

日本での生活、学業において日本語は不可欠であり、ほとんどの留学生が日本語を学びたいと希望している。しかし、渡日後は、学業との兼

ね合いから、日本語を集中的に学ぶことができないため学習時間数が少なく、日本語能力を効率的に伸ばすことが難しいのが留学生の悩みとなっている。

そこで、国費留学生など少数の留学生が受ける日本語予備教育で実施している日本語・日本文化学習および適応のためのオリエンテーションなどをインターネット上でいつでもどこでも受けることができる日本語支援体制の構築が必要であると考えた。

渡日前に予備教育として日本語をインターネット上で学び、渡日後の日本語学習に繋げることにより、来日後、より効率的に日本語を学ぶことができる。また、日本語学習プログラムと同時にキャンパスライフについての情報を発信することにより、日本での生活の不安も軽減され、比較的容易に日本に適応できると考え、オリエンテーションビデオなどの制作も行った。

2 J-Support 日本語学習支援サイト(試作版)の構築

渡日前事前学習プログラムを配信する J-Support 日本語学習支援サイト(試作版)(以下 J-Support)(資料 1 参照)をメディア基盤センターの協力を得て構築し、2011 年から山口大学へ留学予定の学生に試行的に配信を行っている。

J-Support では J-CAT 渡日前受験, J-CATmini 体験版(以下 J-CATmini), fuku クイズ, 山口大学オリエンテーションビデオ(以下 YU オリエンテーションビデオ)にアクセスすることができる。

J-CAT 日本語テスト(以下 J-CAT)は、従来渡日後、一斉受験してもらっていたが、来日直後の受験は負担が大きいこと、コンピュータでの受験に不慣れであることなどを考慮し、渡日前受験を行うことにした。日本語クラスを受講する留学生には、インターネット受験してもらい、渡日後、留学生のレベルにあった適切な日本語クラスで効率的に学んでもらえるようにプレースメントテストとして実施している。J-CAT 渡日前受験も J-Support 上から J-CAT へアクセスできるようにした。また J-CATmini, fuku クイズ等で、練習ができるようになっていく。J-CATmini の電子化については、「J-CATmini 日本語テストネット体験版の構築と利用」(赤木, 今井 2012)に詳しく報告をした。

また、日本語・英語・中国語の 3 カ国語対応の YU オリエンテーションビデオの視聴ができ、山口大学や山口での生活について渡日前に知ることができる。

日本語を学んだことのない日本語未習者には、文字学習、数カ国語対応初級 e-ラーニング日本語学習プログラムなど他機関の許可を

得て、リンクを紹介し、文字や挨拶を事前に学んできてもらうようにしている。

今後、日本語未習者も事前学習ができるようにサバイバル・ジャパニーズや多言語学習プログラムなど自主プログラムを制作し、J-Support の充実化を図っていく計画である。

2.1 J-Support 日本語学習支援プログラム

J-Support では、日本の生活や文化など生の日本社会全般に触れることのできる学習環境を作り、その中で日本語を学んでもらうことを目指している。大学生活や文化的コンテンツを取り上げ、ビデオ、アニメーション、イラストなどのマルチメディアを用い、視覚、聴覚に訴える真正性の高い学習教材の開発を目指している。

J-CATmini や fuku クイズの練習問題もビデオ、アニメーション、イラストを用いた問題を実験的に用いている。留学生からのフィードバックでは、「生のビデオは、新鮮で楽しい、こういう教材でもっと勉強したい」という声が多かった。ビデオ教材は、数年経つと古さを感じるようになるため、常に新しいビデオ撮影が必要であり、経費もかかる。しかし、今はコンピュータでの編集が可能となり、比較的容易にビデオ撮影・編集ができるようになり、自主制作も可能となってきた。国際交流基金のビデオ教材「エリンに挑戦 にほんごできます」やアニメで学ぶ教材「アニメ・マンガの日本語」は、海外でも画期的な教材として衝撃的に受け止められ、好評であるが、これらの教材は、高校生など年少者を対象に制作されたものであり、大学で学ぶ留学生向けコンテンツとして制作されたものではない。留学生向けコンテンツでの制作が必要であると考える。

また、文字サイズを大きくし、フォント、レ

アウトなど留学生が見やすい工夫をした。留学生の視点での使いやすさを心がけ制作を行っている。J-Support のロゴも自主作成し、なるべく留学生が、容易に目的のプログラムにアクセスできるように工夫した。J-Support は、地球、J-CATmini は、ネコ、fuku クイズは、フグのロゴを自主制作し用いた。

4 fuku クイズの電子化

2010 年、J-CAT の練習問題 fuku クイズ(語彙)CD 版を試行的に制作し、留学生の自立学習に役立ててきた。その後、J-Support 構築にあたり、2011 年、CD 版の電子化を行い、J-Support 上に fuku クイズとしてアップロードした。

fuku クイズは、問題 10 問全部に回答すると、瞬時に正解・不正解が表示され、成績も表示される。その後、解説を見ることができる自主学習プログラムである。

fuku クイズでは、問題は、J-CAT 同様に一問ずつ出され、四肢選択問題となっている。問題は、初級(J-CAT100 点~150 点)、中級(150 点~250 点)、上級(250 点~300 点)の 3 レベルあり、各レベル 10 問搭載している。

fuku クイズ へのアクセス方法は、J-Support トップページ fuku クイズを選択すると、fuku Quiz (図 1 参照) が表示される。次に、語彙を選択し、クリックすると、英語または中国語を選択する画面が表示される(図 2 参照)。問題の解説は、日本語・英語・中国語の 3 カ国語で対応しており、初級・中級・上級の 3 レベルが表示される(図 3 参照)。学習者の日本語能力に合ったレベルを選び、クリックすると、問題(図 4 参照)が始まる。問題終了と同時に、成績および正解・不正解が表示される(図 5 参照)。成績は、10 問中 7 問正解というように表示される。また、音声マークを

クリックすると、問題の音声を聞くことができる。さらに、Detail をクリックすると、問題の解説が英語または中国語訳付きで表示される(図 5 参照)。解説では、問題の正解部分の語彙の説明とその例文および例文の英訳または中国語訳をつけ、また漢字にはふりがなをつけ、漢字の読み方も学ぶことができ、学習者が動画やアニメーションを見ながら楽しく自主学習できるようになっている。

fuku クイズの問題項目の作成は、J-CAT 問題項目作成基準に従って作問したものであるが、一部の問題項目は、動画、アニメーション(図 7 参照)、イラスト付き問題項目で、マルチメディア問題項目となっている。特に、着物、下駄、和室、和食など伝統的な文化コンテンツを取り上げ、問題作成を行った。

アニメーションは、日本を代表するサブカルチャーで、留学生にとっては、日本語を学ぶきっかけになっていることが非常に多い。精度の高いアニメーション制作はコストもかかるため、試行的に自主制作したアニメーション、イラスト、動画を用いた。アニメーション、動画付き問題項目研究については、「コンピュータ・アダプティブ日本語テスト—文字語彙アイテム開発—」(赤木、中園、今井:2009)に報告をした。

コンピュータでの日本語学習は、コンピュータの機能をフルに活用したプログラムであることが望ましいが、必然性があり、なおかつ適正な動画や静止画の利用にはまだ研究の余地があると言えよう。fuku クイズでは、実験的にマルチメディア問題項目作成を試み、学習者に利用してもたったところ、好評であった。現在、語彙練習のみアップロードしているが、今後、漢字、聴解、文法、読解についても順次制作し、充実させていく計画である。



図 1 Fuku Quiz

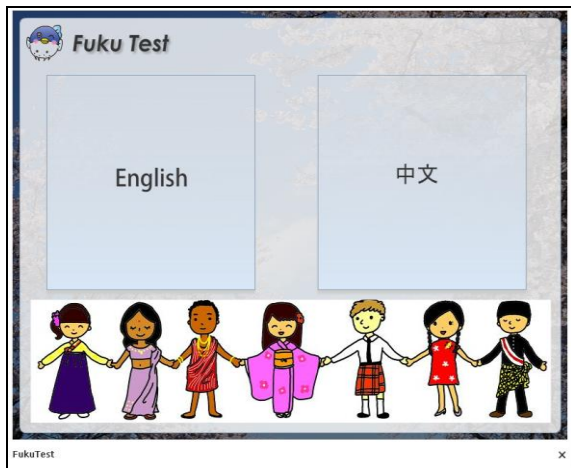


図 2 英語・中国語選択画面



図 3 3レベル選択画面

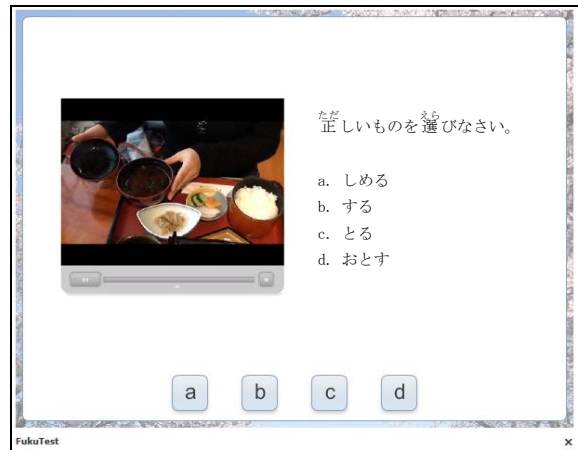


図 4 ビデオ付き問題項目 (四肢選択)

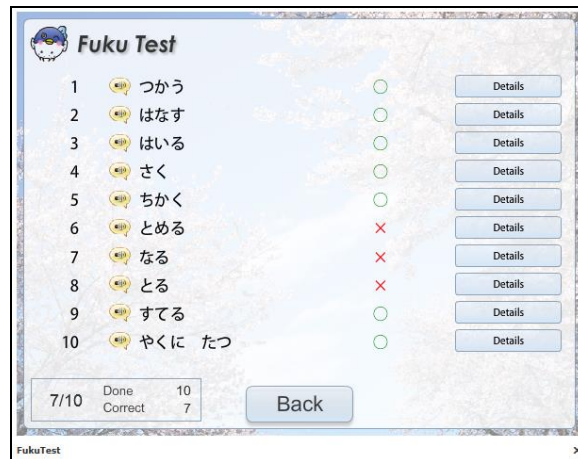


図 5 成績・正誤表示画面



図 6 解説 (英語訳付き画面)

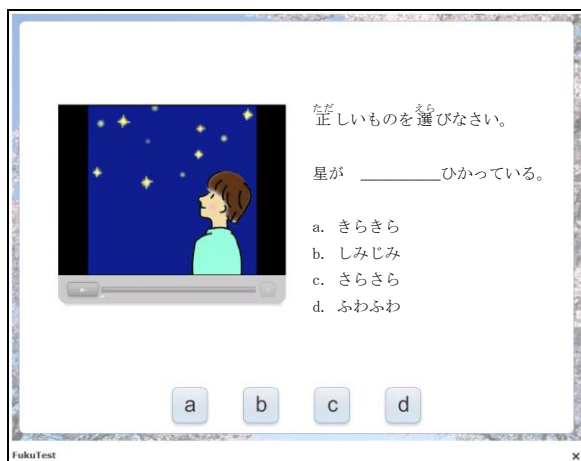


図 7 アニメーション付き問題

5 YU オリエンテーションビデオ

山口大学留学生センターでは、毎年 4 月と 10 月の 2 回、新留学生のためのオリエンテーション、新留学生研修会（以下研修会）を実施し、山口大学および山口での生活に適應できるように、国健康保険などの手続き、交通ルール、ごみの出し方などの生活情報、日本文化への適應、友だち作りのための昼食会、茶話会などのプログラムを行っている。しかし、留学生の登録手続きなどの関係から、研修会は、3 週目に実施している。このため、オリエンテーションを 3 週間待たなければならず、到着後すぐ必要な情報あるいは異国での不安などがすぐには解決できないという問題があった。

そこで、渡日前に事前に情報が得られえるように、山口大学国際交流会館、チューター、日本語授業などを紹介した YU オリエンテーションビデオを制作、J-Support にアップロードした。渡日前、日本語能力チェック、日本語学習同様に、母国で事前に視聴してきてもらうように案内している。

YU オリエンテーションビデオは、全編と項目ごとの小編の両方があり、字幕付きである。全編は、全項目を一度に見ることができ、小編

は、国際交流会館など視聴したい項目を選んで見ることができる。

ビデオ撮影にあたっては、留学生や留学生の日本人学生チューターの協力を得て山口大学で撮影された。日本語授業風景、チューターとの勉強風景、日本文化体験プログラムで華道や茶道を体験している場面などのキャンパスライフおよび大学祭、地域交流での活動風景も紹介している。日本社会や文化を映し出す新鮮な場面を取り上げることを目指し、視聴して楽しいビデオ制作を心がけた。制作にあたっては、事前に自主撮影を行い、オリエンテーション場面として効果的と考えられる場面を抽出した。その後、外部委託し、制作を行った。DVD 版、WEB 版の両方がある。ビデオ撮影は、外注で制作したが、日本語・英語・中国語のナレーションの録音は、自主制作した。

内容

- 1 山口大学～山口、山口大学の生活、留学生寮「国際交流会館」の部屋や留学生の生活を紹介している。
- 2 留学生支援～留学生支援室、チューター制度について紹介している。
- 3 ごみの出し方～ごみの出し方についての説明
- 4 自転車のルール～自転車の乗り方についての説明
- 5 日本語授業文化学習～留学生センターの日本語授業や華道、茶道、書道などの日本文化体験プログラムを紹介している。



図 11 YU オリエンテーションビデオ



図 12 ビデオ (チューター制度)

7 今後の課題

J-Support の運用実験を中国、台湾などの協定校の協力を得、行った。中国では、インターネット回線のスピードによっては、動画や音声途切れることもあった。動画などの容量を小さくする、また facebook や You tube を利用するなどするなどの対策を検討し、先ず、日本での利用が拡大している facebook J-Support を試行的に作成した。facebook は、留学生だけ

ではなく日本人学生もアクセスしている。J-Support のサイトだけでは、アクセスが限られるため、facebook からリンクできるように実験的に行っている。ただ、facebook も中国では利用できない。中国でのインターネット回線の利用については課題であり、現在、北京師範大学と共同で中国教育ネットの利用が可能かどうか模索をしている。

コンピュータやインターネットの進歩により、マルチメディア教材が広く活用できるようになった今日は教材革命といってもよいであろう。動画やアニメーションを視聴するだけではなく、日本語学習ができるというのは学習者にとって魅力的なことであり、もっと勉強したいと思えるようである。楽しく学べ、なおかつ効果的に学べるマルチメディア教材を開発し、学業で忙しい大学院生も限られた時間で日本語が効率的に学べる学習環境の整備を行っていく必要がある。渡日前・後の一貫した日本語学習支援体制の構築には、このようなマルチメディア日本語学習プログラムが不可欠であり、現在、プログラム開発を継続して行っているところである。

J-Support は、2010 年、山口大学国際化推進事業の一環として開発を始めたもので、その後、継続して研究開発を行っている。

(山口大学留学生センター 准教授)

【参考文献】

- 赤木彌生, 今井新悟, 2012, 「J-CATmini 日本語テストネット体験版の構築と利用」『大学教育』査読有, 第 9 号, 掲載予定
- 赤木彌生, 今井新悟, 2010, 「J-CAT 日本語テストの運用」, 『大学教育』査読有, 第 8 号, p. 79-84.
- <http://www.oue.yamaguchi-u.ac.jp/JoHE08.pdf>

赤木彌生, 中園博美, 今井新悟, 2009, 「コンピュータ・アダプティブ日本語テスト—文字語彙アイテム開発—」, 『大学教育』査読有, 第 6 号, p.107-118.

赤木彌生, 2009, 「コンピュータ利用日本語テスト J-CAT マルチメディア問題アイテムの可能性」『第 14 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム』, 査読有, p.32.

今井新悟, 伊東祐郎, 赤木彌生, 中園博美, (他 3 名), 2010, 「J-CAT 日本語能力をコンピュータで測る」『山口大学留学生センター』(著書)

熊野七絵, 廣利正代, 2008 年, 「『アニメ・マンガ』調査研究 —地域事情と日本語教材—」『国際交流基金 日本語教育紀要』, 第 4 号, p55-69

芝野耕司, 2007 年, 「大規模日本語 e-Learning の開発」, CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings

参考サイト

J-CAT 日本語テスト <http://www.j-cat.org/>

とよた日本語学習支援システム 5ヶ国語対

応 <http://www.toyota-j.com/staff.html>

アニメ・マンガの日本語 (国際交流基金)

<http://www.anime-manga.jp/>

エリンが挑戦 にほんごできます(国際交

流基金) <https://www.erin.ne.jp/jp/>

資料 1

J-Support 日本語学習支援サイト

<http://j-support.isc.yamaguchi-u.ac.jp>

にほん語 | English | 中文

やまぐち日本語学習支援サイト
Yamaguchi Japanese Studies Support Site

日本語学習 | 日本文化 | 多言語学習 | 日本語教育 | 留学 | 赤木研究室

J-CAT 日本語テスト
渡日前受験 | 個人受験

J-CATmini
体験版

Fuku Quiz
語彙練習

漢字
Kanji

オリエンテーション
Video

お知らせ

- 2012.02.10 渡日前受験案内【pdf】
- 2012.02.10 学内受験案内【pdf】
- 2011.08.20 渡日前受験J-CAT日本語テスト【pdf】
- 2011.08.20 YU学内受験J-CAT日本語テスト【pdf】

山口県山口市大字吉田16777-1 (〒753-8511)
山口大学留学生センター赤木研究室

サイトポリシー credit
Copyright © 2011 TJ.All Rights Reserved